

# 富士養鱒場だより

第207号

平成22年7月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://www6.shizuokanet.ne.jp/fujimasu/>

## 太田川ダムの水面有効利活用へ向けて



図1 太田川ダム(かわせみ湖)

昨年11月、森町にある太田川の上流に、太田川ダム(かわせみ湖)が完成しました(図1)。かわせみ湖を水産分野から有効利活用したいので、協力してほしいという太田川漁協からの依頼を受け、ヒメマスの放流による地域振興を提案し、導入を働きかけました。今回はこの活動について紹介します。

### 方法

平成21年7月から水環境(水温、DO、プランクトン量)を湖内の定点で月1回調査し、ヒメマスの生息環境に適しているかを調べました。また高い母川回帰性を利用したヒメマスの導入案について、漁協や地元の森町、太田川ダム建設事務所などに、働きかけをしました。

### 結果

#### ア かわせみ湖水質調査

水温・DOの季節変化を図2に示しました。4月から10月にかけて水深5m付近に水温躍層が

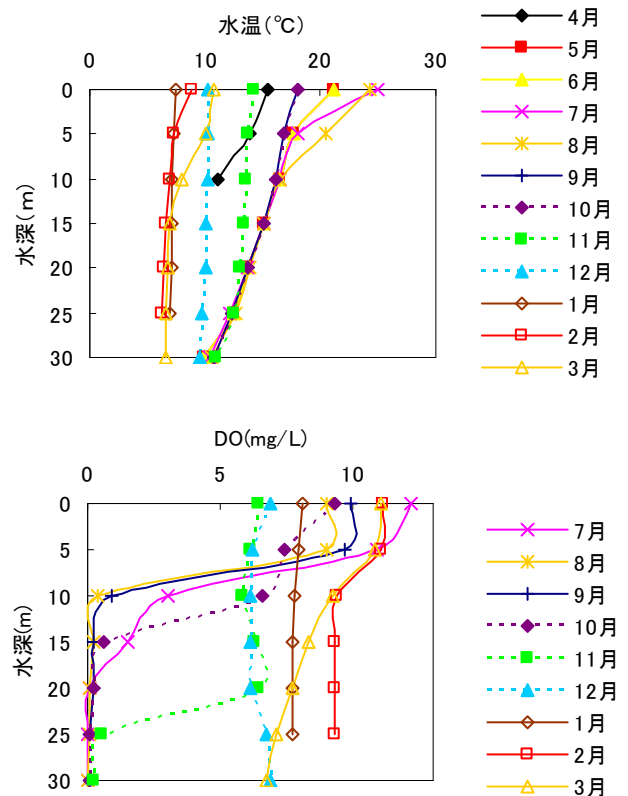


図2 かわせみ湖の水温・DO

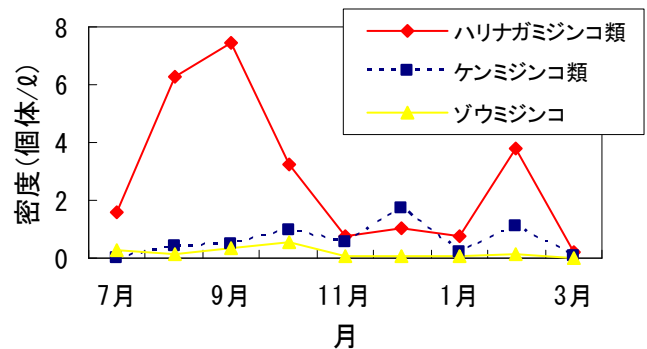


図3 プランクトンの出現状況

あり、その下層は水温が 15℃以下でしたが、DO はきわめて低い状態でした。水温躍層は 11 月以降解消し、冬季には表層から下層まで均一となりました。

プランクトンの出現状況を図 3 に示しました。プランクトンは、ヒメマス主食となるハリナガミジンコ類やケンミジンコ類が見られました。生息密度はハリナガミジンコ類が 0.2~7.5 個体/L、ケンミジンコ類が 0~1.7 個体/L で、過去に報告されている十和田湖<sup>1)</sup>のプランクトン量の範囲内でした。

#### イ ヒメマス導入案の働きかけ

太田川ダム周辺への動植物の導入については、環境監視連絡会が設置され、導入する生物が環境へ問題がないと判断されたものに限り、導入できることになっています。

連絡会との協議の結果、環境への影響などについて大きな問題はなく、放流してかまわないという回答を得ました。また太田川漁協からもぜひ導入してみたいという回答がありました。

そこで湖内に流入する沢にふ化水槽を設置し、11 月 6 日にヒメマス発眼卵 6,000 粒を導入し、漁協組合員による飼育を開始しました(図 4 左上)。しかし、飼育用水の水温が高いことで死亡数が多く、放流前(魚体重 5g)の生残尾数は 1,500 尾、生残率は 25%でした。生残魚のうち 500 尾については、3 月 15 日に地元小学生を招いた放流会を開催し、かわせみ湖へ放流しました(図 4)。残りの 1,000 尾(魚体重約 5g)は 4 月 8 日に漁業者が放流しました。

今年は死亡原因となった発眼卵期の高水温の対策を施し、より多くの稚魚を放流できるよう努めたいと思います。

(岡田裕史)

1)日本水産資源保護協会(2004):湖沼環境の基盤情報整備事業報告書 ー豊かな自然環境を次世代に引き継ぐためにー 十和田湖, 89pp.



図4 ヒメマス飼育と放流会

左上:かわせみ湖内に注ぐ沢に設置された水槽  
右上:3月15日の放流会の様子  
中:放流会に参加してくれた皆さん  
下:放流されたヒメマス(魚体重5g)



## トピックス

### 在来アマゴを守る取り組み —勉強会を開催しました—

静岡県の渓流域に生息するアマゴは、河川ごとに特徴を備えており、守るべき地域の財産です。写真1は、大井川と田尻川に生息する原種アマゴです。一般的な特徴を有する大井川のアマゴに比べ、田尻川のそれには朱点がないこと、パーマークが円形で二段となっていることなどがお分かり頂けると思います。しかし、近年、生息環境の悪化や他地域のアマゴの放流などが原因で、これら在来アマゴの生息が危ぶまれるようになってきました。

そこで富士養鱒場では一部の個体を場内に保護し、遺伝的多様性が失われないように継代飼育を開始し、田尻川産の親魚から大量の稚魚を得ることに成功しました。今回は、これらの稚魚を題材に、地元の河津町立東小学校の4年生以下の児童

40名を対象として田尻川産アマゴの勉強会を4月22日に開催しました(写真2)。当日は、あいにくの雨になってしまったため、当初予定していた子供達による里帰り放流は中止となってしまいましたが、水槽内の稚魚を見て触ることで、その重要性を感じとってくれたと思います。地域の財産を守るには、地域による取り組み、特に子供達に対する教育は欠かせません。今後も、このような活動を積極的に展開していきたいと思います。

なお、田尻川産の稚魚約600尾は、子供達に代わり河津川漁協により田尻川の中下流部へ放流されました。今後も活動を継続することで、田尻川中下流部でも在来アマゴが復活する日も近いと思います。

(鈴木邦弘)



写真1 アマゴの外観



写真2 アマゴ勉強会の様子

## GW 限定の特別企画を開催しました

当场では、ニジマスや養鱒業への理解を深めてもらうために、平成 20 年度から特別企画を開催しています。5 回目の開催となる今回は、やや趣向を変えて「静岡県の淡水魚を集めちゃいました！」と題し、4 月 24 日～5 月 9 日の 16 日間開催しました。

黒潮の影響を強く受ける本県には、海と関わりを持った淡水魚が多く、地域ごとに特徴のある種が生息していますが、中には絶滅に瀕している種も少なくありません。そのような状況を少しでも伝えられたらと思い、県内各地から 30 種以上の魚を集め、展示しました。また、野草やマス稚魚の展示も行いました。おかげさまで、マスコミ各社の注目も高く、多数の方にご来場いただき好評を得ることができました。

夏や秋にも特別企画を開催予定ですが、今後もお来場の方楽しんで頂けるような展示を考えていきたいと思えます。夏企画では“ボウズタワー”



を建築予定です。来場者の反応が今から楽しみです。

(鈴木邦弘)

## 井之頭中学校で水生生物の観察授業が行われました

富士宮市立井之頭中学校の「郷土の水質調査活動・水生昆虫の採集調査」が5月21日に行われました。この調査は、富士宮市の五斗目木川上流で水生生物を観察し、生息する虫の種類を調べることによって、地元の河川環境についての理解、関心を深めることを目的に開催されたもので、富士養鱒場はアドバイザーとして参加しました。

初めに3年生が川の流速や水深を測ったあと、1年生から3年生までが6グループに分かれ、川の中に入って手製の採取器具やピンセットなどを用いて川の石の下などに潜んでいる昆虫などの生物を採取しました。今年は川の水量が多く、生徒たちのうち何人かは、調査するうちに長靴の中にまで水が入ってしまいました。また、ブユが多く発生していましたが、幸いさされた生徒はいなかったようです。案の定、川の石をひっくり返してみると、ブユの幼虫が非常に多くとれました。

採集した水生生物は、学校に持ち帰って種類別



に分類した後に結果を取りまとめ、出現生物と川の環境についてグループごとに発表を行いました。

この結果については、富士養鱒場で8月20日に行う県民の日のイベントの中で発表していただくことになっています。

(鈴木基生)



### 熱川小学校の川の学校

5月21日、東伊豆町立熱川小学校で“ふるさとの川について”の総合学習のため、地元の白田川についての授業が行われ、ゲストティーチャーとして講義を行いました。

当日は、白田川の地形や生息する魚類について、その生活史や海との関係など白田川の基礎知識ということで話をしました。

(川嶋尚正)



### 白糸小学校のアマゴ放流会と水生昆虫の観察

6月9日に富士宮市内白糸小学校生によるアマゴの放流会と水生生物の観察会が行われました。アマゴの放流には芝川漁業協同組合が、水生昆虫の観察会には現場が協力をしました。漁協の準備した稚魚が生徒に配られると、めいめい川に入り、元気に育つよう声をかけながらそっと放しました。その後、高学年生は水生昆虫の採集を行い、生活史や生息している環境の説明に耳を傾けたり、元気に質問をしたり、楽しい時間を過ごしました。低学年生は笹舟を作ってレースをするなど、川と親しんでいました。

当日の水温は13度しかありませんでしたが、子供たちは元気で、中には泳いでしまう生徒もあり、“川ガキ”を遺憾なく発揮していました。

(川嶋尚正)



### 富岳館高校出張授業

6月24日、富士宮市内にある県立富岳館高校で稚魚の育成方法とニジマスの捌き方についての出張授業を行いました。

ニジマスの捌き方では、ニジマスの三枚下ろしについて指導しました。生徒たちは慣れない手つきで、苦戦しながらも、レギュラーサイズのニジマスを一尾に下ろしていました。

(岡田裕史)



## 富士養鱒場の湧水と気象

| 月  | 天候（午前9時）：日数 |    |    |   |   | 降水量(降水日数)<br>：mm（日） |         | 湧水量：万t/日 |       |
|----|-------------|----|----|---|---|---------------------|---------|----------|-------|
|    | 快晴          | 晴  | 曇  | 雨 | 霧 | 22年                 | 20年平均   | 21年      | 20年平均 |
| 4月 | 0           | 10 | 12 | 8 | 0 | 382(16)             | 203(9)  | 7.2      | 4.1   |
| 5月 | 1           | 18 | 8  | 4 | 0 | 198(12)             | 246(11) | 6.7      | 4.6   |
| 6月 | 0           | 13 | 9  | 6 | 2 | 410(17)             | 260(12) | 7.6      | 4.9   |

## 日誌

|   |   |
|---|---|
| <p>4月 1日 辞令交付</p> <p>8日 太田川ダムヒメマス放流</p> <p>15日 大井川漁協来場</p> <p>22日 田尻川アマゴ勉強会(河津町)</p> <p>23日 しずおか農水産物認証制度勉強会(富士宮市)</p> <p>24日 ゴールデンウィークの特別企画(場内、～5月9日)</p> <p>27日 岳水協(富士市)</p> <p>28日 太田川ダム水質調査(森町)</p> <p>水産事業概要説明会(静岡市)</p> <p>5月14日 東部地域連絡調整会議(沼津市)</p> <p>19日 全国養鱒技術協議会運営委員会(東京都)</p> <p>21日 井之頭中学校水生生物観察会(富士宮市)</p> <p>熱川小学校川の学校(東伊豆町)</p> <p>24日 マダイ中間育成検討会(沼津市)</p> | <p>25日 猪之頭公園運営協議会(富士宮市)</p> <p>27日 太田川ダム水質調査(森町)</p> <p>6月 1日 全国養鱒技術協議会魚病対策研究部会(東京都、～2日)</p> <p>11日 白糸小学校アマゴ放流会・水生生物観察会(富士宮市)</p> <p>富士宮第二中学校来場</p> <p>14日 ヒメマス放流打合せ(袋井市)</p> <p>18日 富士宮市立富士根北中学校、北山中学校来場</p> <p>21日 東京海洋大学岡本教授、JICA研修生来場</p> <p>22日 全国養鱒技術協議会養殖技術部会(東京都)</p> <p>24日 静岡県立富岳館高校出前授業(富士宮市)</p> <p>内水面ブロック場長会(本所、～25日)</p> <p>25日 富士宮市立北山小学校見学(42名)</p> <p>太田川ダム水質調査(森町)</p> <p>29日 富士養鱒漁協総会(富士宮市)</p> |
|---|---|